

## [ 合唱発表会活動 ]

協議会活動の柱のひとつとして位置付け、開催地や、企画にも工夫を凝らしながら、サークル・合唱団の演奏交流、学びあい、高めあう場として合唱発表会が開催されている。

鹿児島で近年初めて、山形では鶴岡市で初めて開催、新しい参加団体を増やしている。また、全国青年交流会の中で初めて青年の合唱発表会が開催された。一方、開催ができなかった県もいくつかあり、ここ数年未開催の県と合わせ、年度当初から計画を持ったとりくみが求められる。

産業別合唱発表会・交流会も、現役会員が減少する中でも、地域にも視野を広げたり、OBサークルの参加などの工夫をしてつづけられ、参加者を励ましている。多くの退職者が予定されているここ数年、産業別交流会の新たな展開の論議が急がれる。全国的な参加団体数は若干減少した。

全国合唱発表会は、一般A・B、職場、女性（親子）、小編成、交流の各部門とオリジナルコンサートが開催され、参加団体、参加人数とも近年最高となった。初めて開催された交流の部は、分野もジャンルも超えた多彩な演奏交流を実現し、参加者を感動させた。多くの聴衆の参加や、推薦方法、当日の進行方法なども含めさらに検討をしていきたい。

方針 3 地方祭典の全県開催をめざし、日本のうたごえ祭典の長期開催計画を持つ。

## [ 1 ] 日本のうたごえ祭典inひろしま

祭典は“被爆60年 輝けいのち・憲法9条”を合言葉に被爆地・広島で開かれた。ピースウェーブコンサート 2000人、いのちのハーモニー 2500人、大音楽会（ヒューマンフェスタ）4600人、合唱発表会 4500人、のべ13600人の参加者で、全国の連帯で成功させることができた。

祭典は、30年ぶりの「炎の歌」全曲演奏をはじめ、地元音楽家・団体の演奏、うたごえ合唱団の平和の思いを熱く伝えたピースウェーブコンサート、ライトアップされた原爆ドームの川辺で被爆ピアノとともに奏で、被爆者への鎮魂と平和を願ううたごえとなったいのちのハーモニー、郷土芸能・和太鼓の静寂と躍動、障害者も健常者も老人も子どもも一緒につくった“共に生きる街”、1000人を超える明日へのヒューマンボイス等全国の参加者とともに歌い交わした“ピースフル・ボイス”にあふれた平和音楽祭となったヒューマンフェスタ。

特徴ある3つの音楽会が織りなす平和のハーモニーは、“輝けいのち・憲法9条”の強い思いを、ヒロシマ・ナガサキから全国へ世界へ発信した。

祭典は、95年の広島での日本のうたごえ祭典から積み上げているピースウェーブコンサートとこの間の祭典の財産を実らせ、“憲法をまもり、核兵器をなくそう”の平和のうたごえを全国から起こし、歌って参加の地元・全国の創造的連帯の中で、被爆60年にふさわしい運動と内容で成功させることができた。

## [ 2 ] 地方祭典と産業別祭典

地方祭典 京都は、京都のうたごえ55周年“55GoGo!フェスティバル”として、2日間借りきった右京ふれあい文化会館に「わたしの平和」ひと言メッセージを展示し、合唱発表会、PEACEコンサート、日本で一番長いうたごえ喫茶、居酒屋も開催。北海道&国鉄祭典は、国鉄の分割・民営化で北海道を離れた人たちが定年で故郷に戻ったのを機に、国鉄のうたごえ祭典とジョイントで開催。北海道は被爆・戦後60年、憲法改悪反対を合唱構成「未来に輝く星」で、国鉄は創作曲「故郷を紡ぐ銀河線」を中心にした構成を演奏。祭典記念合唱団はひろしま祭典全国合同につないだ。

九州祭典は、福岡初300人による「平和の旅へ」他、親子、障害者、保育者、労働者の大ステージで700人が参加。マスコミ各社後援、賛同団体60団体と市民に大きくアピールした。

広島祭典は第二部をひろしま祭典・ピースウェーブコンサート、大音楽会のシミュレーションで行い、祭典最終盤のステップとした。

福岡祭典は、荒木栄記念碑建立20周年記念と合わせ開催。「墓標」「子どもを守るうた」を演奏し、ひろしま祭典につないだ。

信濃祭典は、03年ながの祭典成功で県下にエネルギー。23年ぶりに松本市で開催。地元松本中央コーラスが中心となり、地域に呼びかけた合唱練習会も5月から開始し、1000人の合唱で「鶴」「大地讃頌」を演奏、ひろしま祭典へつないだ。地元紙も大きく報道。

神奈川祭典は、かがやけいのち憲法9条をタイトルに「ぞうれっしゃ…」から職場、地域、高齢者と大舞台。神奈川のうたごえを支えるゲスト演奏、憲法をテーマに組曲「いのちのルール」、祭典合唱団「アメイジング・グレイス」など県下の力を集めた祭典となった。

地域祭典 大阪・北部祭典は北部サークル協議会と北部センター合唱団のうたごえの枠を超えたよびかけに、270人が出演する祭典となった。東京・足立祭典は24回目。保育所建設運動の歌、東京大気汚染公害裁判支援・あおぞら合唱団70人など市民運動、文化運動が集う場でもある。

他にも、合唱発表会を祭典として開催されている所もある。また、兵庫では毎年の“グリーン&ピース”コンサートを、東京は第3回“夜空にうたう夏まつり”を開催。日本のうたごえ祭典開催以後の福岡、長野、5年ぶりの神奈川など、大きく広げたとりくみはうたごえ祭典ならではの教訓を示している。

産業別祭典 港湾祭典は、港から戦争への道を止める構成「俺たちは戦争にはいかない」を演奏。

教育祭典は北九州のサークルエデュカスを中心に200人の「ぞうれっしゃ」や「子どもを守るうた」など地域に広げた。

私鉄祭典は45歳以上賃金カットの劣悪労働条件を変え、公共交通は福祉と構成「A(え～)列車で行こう」を演奏。

自治体は合唱発表会と声楽発表、パイプオルガン演奏の鑑賞を行った。

国鉄祭典(地方祭典の項)。

電通祭典は、職場の実態をコミカルに描き、一人ひとりが勇気を出してものを言おうと構成「ダイヤとビー玉パート7」、100人の組曲「自由なる朝へ」を演奏。

郵便祭典は郵政民営化へと揺れる中で、公共の福祉を守る郵便をと新曲「走れ未来にむかって」を演奏。

保育は合唱交流会に7月の全国保育団体合同研究集会・広島300人のステージから41人が参加、ひろしま祭典へ。

医療祭典は「すべて国民は 日本国憲法25条」など構成「守ろういのち」を演奏。北海道・ミニデイホームのうたう会きずな初参加。

\*この他、6年ぶり的大阪自治労連のうたごえ祭典は17単組が出演、23のステージで480人が参加。職場の思いを歌で交流し、そのつながりを意識し、来年も開催される。産業別祭典でも憲法が歌われた。職場と地域をつないで、広く市民に呼びかけて成功させた教育のうたごえ、地方祭典の成功例から学びたい。